

東京 肝臓のひろば

令和3年(2021年)4月号

第241号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

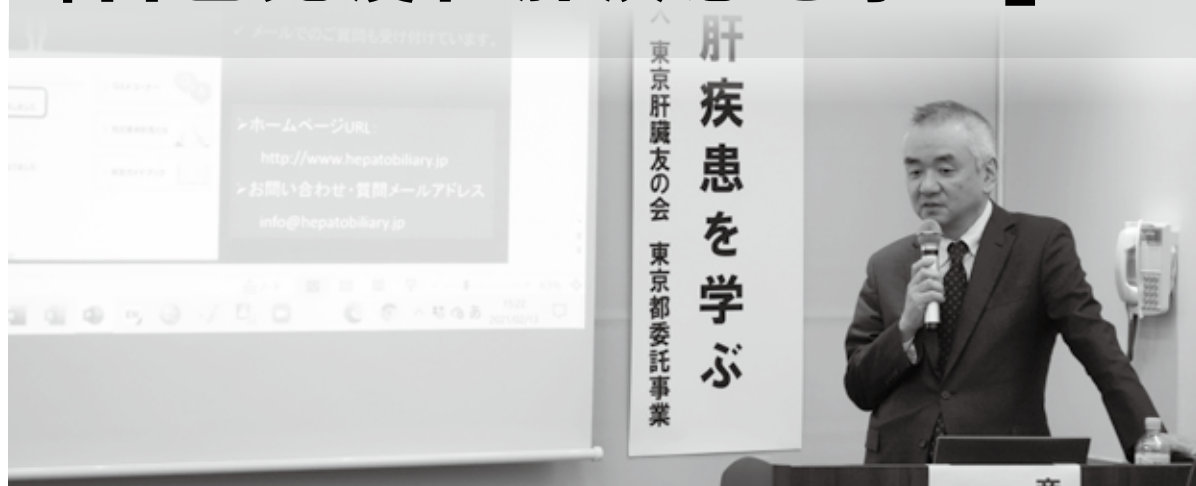
〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



講演

東京肝臓友の会主催 東京都委託事業肝臓病医療講演会・相談会

「自己免疫性肝疾患を学ぶ」



【日時】 2021年2月13日(土) 14時～15時30分
(Web開催)

【場所】 ステーションコンファレンス東京
(東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー)

帝京大学医学部内科学講座 教授

田中 篤 先生

司会 (米澤敦子)

みなさんこんにちは。東京肝臓友の会の米澤敦子です。当会主催、東京都委託事業、2020年度第2回の医療講演会を開催いたします。まだ皆さんにお集まりいただける状況ではないので、今回もWebでの開催となります。皆さんにお会いできないのは残念ですが、遠方の方もご覧いただけるのでたくさんの方に視聴していただきたいと思っています。

本日の講師の田中篤先生のご紹介をいたします。1988年東京大学医学部をご卒業後、聖路加国際病院、東京大学第一内科を経て1996年にカリフォルニア大学デービス校で学ばれ、2003年に帝京大学医学部内科学講座講師となられて現在は同大学の教授、また帝京大学医学教育センター長を併任されています。

では早速講演会に移りたいと

もくじ | Index |

東京肝臓のひろば 241

2 医療講演会講演録

「自己免疫性肝疾患を学ぶ」

帝京大学医学部内科学講座教授 田中 篤先生

29 PBC・AIH・PSC通信

30 ジコメン・メディカル・シンヤク寄稿

帝京大学医学部付属病院 田中 篤先生

31 東京肝臓友の会活動日誌 (2月・3月)

32 書籍紹介

思います。「自己免疫性肝疾患を学ぶ」、田中先生どうぞよろしくお願いいたします。

田中篤・皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました、帝京大学内科の田中でございます。本日はこの医療講演会にお招きいただきまして、大変光栄に存じます。本日は私が専門としております自己免疫性肝疾患——自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、それぞれにつきまして、お話をしてみたいと思います。最後に、いま非常に問題になっている新型コロナウイルス感染症及びそのワクチンに関して、少しお話をしたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに

(1) 免疫とは

自己免疫性肝疾患というのは、なかなかわかりにくい言葉

だと思えます。自己免疫によって起こってくる肝臓病である、ということですが、自己免疫というものがまたわかりにくい。ことに「免疫」という言葉です。時々、患者さんから「免疫を強くすればいいのか、それとも弱くすればいいのか」とご質問をいただくことがあります。また、免疫のことをインターネットで検索しますと、「この時期こそ免疫対策、話題の免疫対策サプリ」「日常生活で免疫力を高める〇〇酒」といったコマーシャルがたくさん出てきます。ここだけの話ですが、免疫力という言葉が出てきたらもう間違いだと思っていたいて構わない、と個人的には思っております。

果たして免疫とはなんぞや、ということからお話を始めたいと思えます。そもそも免疫は、身体の健康を守るための働きです。まず、外から身体のなか

に侵入してきた病原体(異物)を、自分の身体のものではない「非自己」(「自己」ではないもの)として認識する。その異物を無力化するための蛋白質(抗体)をつくったり、あるいは他の物質・細胞によって異物を壊したりして、身体を防御する。このように定義されています。病原体(異物)は、細菌、ウイルス、カビ、寄生虫などさまざまなものがあります。場合によつては、もともと自分の身体の中にあるものでも、古くなり不要となった物質・細胞や、形が変わってできたがん細胞も異物として認識して免疫系が攻撃し、身体を守っています。このような働きが「免疫」です。

(2) 自己免疫とは

では「自己免疫」とはいったいどういうことか。免疫系の中の心的な働きである「自己」と「非自己」の区別は、時として

非常に困難です。人間の身体も数億年の進化の経過をたどると昔は大腸菌のようなものだったりするので、細菌・ウイルスは蛋白質や細胞レベルで見ると非常に似ている場合がしばしばあります。したがって、もともと自分の身体の中にあるもの(物質、細胞、組織)を異物と間違えて認識してしまい、免疫系が攻撃してしまうということが時々起こってきます。この現象を「自己免疫」あるいは「自己免疫反応」と呼び、それによって起こってくる病気を「自己免疫疾患」と呼んでいます。自己免疫反応そのものは誰でも頻繁に起こっているのですが、それが病気になるってしまうのが自己免疫疾患です。どのような細胞・組織を攻撃するかによってさまざまな種類の自己免疫疾患があります。肝臓が攻撃されれば「自己免疫性肝疾患」ということです。どうしてこのように

免疫系が勘違いをするのか、ま
だはつきりわかっていません
が、おそらくもとと遺伝的に
そのような体質を持った方に対
して、何らかの環境因子が加
わって発症するのだろうと考え
られています。

(3) 3つの自己免疫性肝疾患

自己免疫性肝疾患は、大きく
分けて3通りあります。まず
自己免疫性肝炎、これは英語に
しますと autoimmune hepatitis
で、我々はよくAIHと呼
んでいます。それから原発性
胆汁性胆管炎です。英語では
primary biliary cholangitis、
PBCと呼んでいます。5年
前(2016年)までは原発性
胆汁性肝硬変という名前でした。
それから3つ目が、原発
性硬化性胆管炎です。PBC
と名前が似ていますが、英
語だと primary sclerosing
cholangitis、PSCです。こ

の3つの疾患についてお話し
して、最後にいま非常に問題に
なっている新型コロナウイルス
の感染症とワクチン、果たして
自己免疫性肝疾患の患者さんが
ワクチンを打つべきかどうか、
私なりの考えを申し上げたいと
思います。

1 自己免疫性肝炎(AIH)

① どんな病気か

それではまず、自己免疫性肝
炎から順番に見てまいりたい
と思います。自己免疫性肝炎
は、自己免疫反応によって肝細
胞が攻撃されて肝炎が生じる病
気です。肝炎というのは、原因
にかかわらず肝臓の細胞(肝細
胞)が主にリンパ球によって破
壊されて起こる病気です。つま
り肝細胞の表面に存在する何ら

かの物質をリンパ球が認識して
攻撃するのですが、肝炎にもい
ろいろなものががあります。ウイ
ルス感染によって起こるのが
B型肝炎、C型肝炎です。こ
れに対して、外から入ってきた
ウイルスではなく、もともと肝
細胞に存在する何らかの自己の
物質を、免疫系が誤って非自己
として認識して攻撃する。それ
によって起こる病気が自己免疫
性肝炎です。ですから、B型
肝炎・C型肝炎といったウイ
ルス性の肝炎と、起こってくる
状態としては非常に似ています
が、原因となっている物質が違
うということになります。

自己免疫性肝炎は、ほとんど
の場合には非常にゆっくり、気
が付かないうちに発症してきま
す。多くの方は自覚症状がな
く、たまたま受けた健康診断や
人間ドックで肝機能異常を指摘
され、詳しく調べてもらいなさ
いと言われて我々のところにい

らっしゃることがほとんどで
す。1割くらいの人は激しい急
性肝炎を起こし、全身倦怠感や
黄疸といった症状で発症しま
す。血液検査をすると、いわ
ゆる肝機能検査の中でAST・
ALTが上がっていますし、
抗核抗体という自己抗体が陽
性になったり、血清IgGと
いうのが上がっていたりしま
す。ただこの病気は、血液検査
でこのような所見が出れば必ず
診断ができる、というものがあ
りません。そのため、入院して
いただいて肝生検をして肝臓の
組織を見るということが、診断
をつける上では必須となってい
ます。今は良い薬があるのです
が、治療しない場合やなかなか
薬が効かない場合には、徐々に
進行して肝硬変に至ってしま
うこともあります。

② 診断

我々は、厚生労働省の研究費を

自己免疫性肝炎の診断基準

1. 他の原因による肝障害が否定される
2. 抗核抗体陽性あるいは抗平滑筋抗体陽性
3. IgG高値(>基準上限値 1.1倍)
4. 組織学的にinterface hepatitisや形質細胞浸潤がみられる
5. 副腎皮質ステロイドが著効する

典型例: 1+2~5のうち3項目以上
非典型例: 1+2~5のうち1~2項目

診断には

肝生検が必須!

「肝炎」
・AST・ALTが上昇
・HBs抗原(-)、HCV抗体(-)

(厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班、2013)

図1

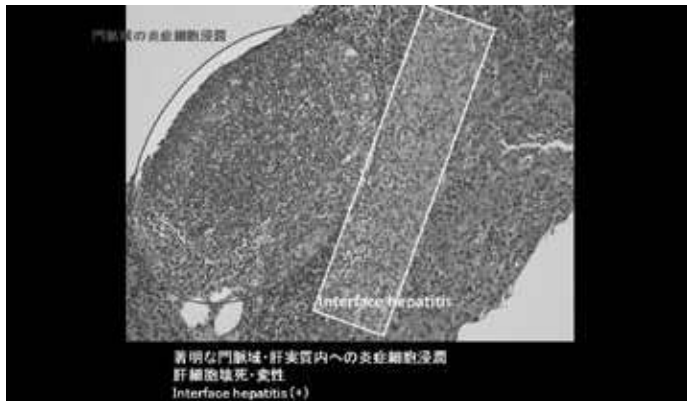


図2

いただいて「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班を組んでおります。ここで2013年にこの病気の診断基準を作りました(図1)。まず肝炎です。で、AST・ALTが上がっている。それから他の原因、B型肝炎やC型肝炎ではないことが前提になります。その上で、抗核抗体陽性あるいは抗平

滑筋抗体という別の自己抗体が陽性であること。IgGが高いこと。組織学的にinterface hepatitisや形質細胞浸潤という所見があること。それからステロイドという薬が効くこと。このようなものがある程度満たされれば、自己免疫性肝炎と診断します。繰り返しますが、これ1つがあればこの病気だと

診断できるものがないので、どうしても診断には肝生検を受けたいが必要があるのです。これが自己免疫性肝炎の患者さんの肝臓の像です(図2)。少しわかりにくいのですが、ピンク色のところに紫色の粒々がたくさん入り込んでいます。これが肝臓の組織の中に入り込んできたリンパ球で、炎症細胞浸潤という所見です。これが肝臓のかなり奥のほうまで入ってきていて、interface hepatitisと呼んでいます。このような所見があれば、自己免疫性肝炎でしょうと診断することになります。

③ 治療

(1) ステロイド、

アザチオプリン

自己免疫性肝炎には、副腎皮質ステロイドという薬が非常によく効くことがわかっています。この病気を診断したら、だいたい30mgから40mgという少し

多めの量のステロイドを飲んでいただきます。そうすると皆さん肝臓の数値がだんだん下がってきますので、それを見ながらステロイドの量を少しずつ減らしていきます。ただ完全に止めてしまうと、しばしばリバウンドしてまた悪くなってしまうので、だいたい1日5mgとか10mgという少量を長期にわたって飲んでいただくことが多いです。また、ステロイドというのは非常に副作用が強いお薬ですので、飲めない方もいらっしゃると思います。そのような場合には、アザチオプリンという薬を使うこともあります。

このような薬を飲んでいただくと、自己免疫性肝炎の患者さんは、この病気のために亡くなったり肝移植が必要になったりすることはまずありません。これは信州大学の先生方が施設でお調べになったデータです(図3)。グラフの横軸が診断し



書籍紹介

肝硬変治療にテーマを絞って解説
うわさの亜鉛補充療法とは・・・

監修：大阪大学名誉教授・関西労災病院長 林 紀夫
編著：大阪府立成人病センター肝臓内科部長 片山和宏

目次

第1章「肝硬変の知識」

- 1 肝硬変とは 2 肝硬変の原因 3 肝臓の働き
- 4 肝硬変での肝臓の状態 5 肝硬変の症状
- 6 肝硬変の血液検査と画像検査
- 7 肝硬変とその合併症の診断 8 肝臓ガンの診断と治療

第2章「肝硬変の治療と管理」

- 1 薬による治療(内服薬・注射)
- 2 肝炎ウイルスをもっていますか?
- 3 その他の治療(漏血治療、胃カメラ、カテーテル等)
- 4 肝硬変の運動療法 5 肝硬変の栄養療法

◆肝硬変の管理のポイント ◆患者さんの声

東肝会にて販売しています。

- お申込は：住所、氏名、電話番号を必ずご記入ください。
FAX：03-5982-2151 TEL：03-5982-2150
(火・木・金曜日*祝日を除く、10時～16時)
- 費用は：本1980円+送料200円
(郵便振替用紙を同封します)

わかりやすい本です。
スタッフおすすめ!

書籍のご紹介

肝臓がんの治療法(ラジオ波などの焼灼療法、塞栓・動注・分子標的薬による化学療法から、最新の切除法、陽子線・重粒子線治療、移植、免疫療法まで)について、経験豊富な先生方により図解付きで詳しく解説されています。

治療にぜひお役立てください。

東京肝臓友の会で販売しております。

【書籍代】1,980円 +【送料】200円

お電話にてお申込みください。

電話：03-5982-2150

(火・木・金曜日*祝日を除く、10時～16時)

ベスト シリーズ

名医が語る 最新・最良の治療 肝臓がん

日本大学医学部
消化器内科教授
高山忠利
兵庫医科大学看護学センター長
がん・肝臓病研究
飯島裕子
東京大学医科センター大森病院
一般・消化器科部長
金子弘真
東京大学大学院医学系研究科
肝臓病・がん・人工臓器学
外科学分野教授
國土典宏
筑波大学医学部
消化器科教授
土谷 薫
国立病院機構九段中央センター
肝臓・胆膵・膵臓内科部長
高見裕子
国立がん研究センター中央病院
肝臓・胆膵・膵臓内科部長
荒井保明

公明財団医学研究財団
消化器・肝臓内科部長
小尾俊太郎
杏林大学医学部内科
腫瘍内科部長
古瀬純司
筑波大学大学院
人間総合科学研究科教授
筑波大学附属病院
電子線医学部腫瘍センター長
櫻井英幸
(独)放射線医学総合研究所
電子線医学部センター共同部長
安田茂雄
東京女子医科大学
消化器内科教授
江川裕人
国立がん研究センター東病院
腫瘍病センター
免疫療法研究分野部長
中面哲也



あなたに合ったベストな治療法が
必ず見つかる!!

法研